

令和5年度 第4回江南市上下水道事業経営審議会 議事要旨

会議名	令和5年度 第4回江南市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和6年2月14日(水) 午後2時から 午後3時15分まで
場所	江南市防災センター2階 研修室1
委員	出席委員6名 横山 幸司 (学識経験者) 尾関 昭 (市議会議員) 古田 みちよ (団体代表) 三輪 陽子 (市議会議員) 深尾 俊一 (公募委員) 松井 俊樹 (公募委員)
事務局	8名 (水道課) 古田 (水道部長兼水道課長) 尾関 (水道課主幹) 安田 (水道課配水・維持グループリーダー) 宮坂 (水道課経営・業務グループ) (下水道課) 酒匂 (下水道課長) 今枝 (下水道課主幹) 間宮 (下水道課業務・経営グループリーダー) 平山 (下水道課業務・経営グループ)
傍聴人数	なし
資料	・次第 ・資料1：令和6年度江南市水道事業会計当初予算(案)の概要 ・資料2：令和6年度江南市下水道事業会計当初予算(案)の概要 ・資料3：下水道事業経営戦略の進捗状況について ・資料4：地下水揚水量削減に伴う取水井の廃止について ・「江南の水道」No.25

1. 開会 水道部長あいさつ

2. 議題

(1) 令和6年度水道事業会計当初予算(案)について

事務局 資料1「令和6年度江南市水道事業会計当初予算(案)の概要」を用いて説明した。

委員 主な事業について、令和6年度に電気自動車を1台購入とあるが、その後の購入予定はあるか。

事務局 今のところ購入予定はなく、現在使用している公用車が老朽化した際に、購入を検討する。

委員 配水管布設工事延長が令和6年度、令和7年度の各7,500mと比べ、令和8年度は4,000mと少なくなっているがその理由はなにか。

事務局 財源が限られていることから、令和8年度の基幹管路更新工事の事業費を約1億円増額した分、配水管布設工事の事業費を削減したためである。

委員 不断水仕切弁設置工事とはなにか。

事務局 断水せずに水道管に仕切弁を設置する工事のことで、仕切弁を設置することにより特定の部分の水を止められるようになるものである。

(2) 令和6年度下水道事業会計当初予算(案)について

事務局 資料2「令和6年度江南市下水道事業会計当初予算(案)の概要」を用いて説明した。

委員 (1)業務の予定量について、前年度に比べ、排水戸数が400戸増えているにもかかわらず年間排水量が減っているのはなぜか。

事務局 過去の排水量の実績を踏まえ、将来の排水量の予測をたてるが、令和5年度予算編成時の予測がやや過大であったのが原因であり、令和5年度の排水量の見込みは予算編成時の数値よりも減となりそうである。

委員 主な事業について、古知野高校以外に、古知野南小学校や古知野西小学校の雨水貯留施設も整備していくと聞いたことがあるが、事業内容の記載はないのか。

- 事務局 本資料には、企業会計での実施分のみ掲載している。市として、古知野南小学校や古知野西小学校の雨水貯留施設の整備も予定しているが、一般会計での実施のため記載していない。
- 委員 雨水貯留施設について、古知野高校を企業会計、小学校を一般会計で整備する理由はなにか。
- 事務局 それぞれの事業着手時において、より多くの国庫補助金等を確保できるよう補助制度を活用したためである。
- 委員 内水浸水想定区域図作成委託料は高額だが、予算額はどのように決めたのか。また、現時点で委託業者は決定しているのか。
- 事務局 業務内容を踏まえた積算基準にのっとって予算額を決定している。委託業者は、次年度の4月以降に入札で決定の予定である。
- 委員 令和6年度の雨水貯留施設整備事業のなかで、日光川分と古知野高校分の事業費の内訳は。
- 事務局 約4.8億円の事業費のうち、約1,200万円を日光川分、残りを古知野高校分としている。
- (3) 下水道事業経営戦略の進捗状況について
- 事務局 資料3「下水道事業経営戦略の進捗状況」を用いて説明した。
- 委員 水洗化率が70%だが、未接続数を教えてほしい。
- 事務局 令和4年度の決算数値として、下水道が利用できる区域の世帯数が約1.9万に対し、未接続世帯は約1.3万となっている。
- 委員 未接続世帯が多い要因はなにか。
- 事務局 他自治体に比べ供用開始が平成14年と遅いためか、すでに合併処理浄化槽が設置されている世帯が多いことが、下水道への接続が進まない要因の一つであるとする。
- 委員 下水道への接続工事費はどのくらいか。
- 事務局 家の形状等によっても工事費は異なるため、どのくらいの金額かは一概に言えない。

委員 経費回収率向上に向けたロードマップについて、経費回収率の数値が令和10年度から令和11年度にかけて大きく向上している理由はなにか。

事務局 令和9年度の下水道使用料改定により使用料単価が150円/㎡となると、翌々年度の令和11年度より経費回収率の算定に加えられる基準内繰入金が増額するためである。

3. その他

(1) 水道料金の基本料金全額免除について

事務局 資料「江南の水道 No. 25」を用いて説明した。

質疑なし

(2) 地下水揚水量削減に伴う取水井の廃止について

事務局 資料4「地下水揚水量削減に伴う取水井の廃止について」を用いて説明した。

委員 2ページ上段の表について、地下水揚水量の規制値12,800㎡/日に対し、令和8年度の予測値が11,866㎡/日と少ない理由はなにか。

事務局 規制値は一日最大の取水量から算出しているが、予測値は一日平均の取水量から算出しているためである。

委員 同表について、年度の違いはあるものの、令和8年度の日当たり取水量の合計値27,537㎡と、先ほど説明のあった当初予算(案)の概要に記載されている令和6年度の日平均給水量25,479㎡の数値がかい離している理由はなにか。

事務局 当初予算(案)の概要に記載の数値は、水道料金収入の対象となる有収水量のみだが、同表は、メーター不感水量など料金収入の対象とならない無収水量も含む数値である。

(3) 今後の予定について

事務局 今後の予定について説明した。

4. 閉会